
新学習指導要領実施に向けて

研究部長 岡田 仁

今年度公開研究会

今年度研究部長になりました岡田です。よろしくお願いいたします。

今年度も6月に公開研究会を無事開催することができました。

今年度は300名弱の参加者があり、昨年度の200名弱を大きく上まわりました。特に大学生・大学院生の増加が目立ちましたが、現職の先生方の参加もかなり増加しました。

今回の研究テーマは世田谷中学校で育てる「21世紀型能力」～各教科が目指す深い学びを通して～で、新学習指導要領改訂と深い関わりがあります。新学習指導要領改訂に対する関心が高まっていることが伺われます。

公開授業では、毎回、本校の生徒の皆さんの学習に対する前向きな姿勢が高く評価されています。今年度も例外ではありませんでした。また、来校者の案内等を担当してくれた生徒の皆さんご協力ありがとうございました。

校内夏季研究会

本校では毎年夏休み中に「夏季研究会」というものを行っています。そこでは、本校全教員が本校の研究

に関する各教科の発表やいろいろな議論が行われます。今年は各教科の深い学びや見方・考え方の発表や教科を超えての思考スキルなどに関する議論がなされました。

また、夏季研究会は我々教員の研修の場でもあるので、外から講師を招いての講演も多く行われます。

今年は京都大学の石井英真(てるまさ)先生に講演をしていただきました。石井先生は学力やカリキュラムについての研究をご専門とされ、新学習指導要領に関わる単著「今求められる学力と学びとは—コンピテンシー・ベースのカリキュラムの光と影—」(日本標準ブックレット)は、日本の教員の間で広く読まれています。石井先生のご講演では、これから求められる資質・能力とは何か、どんな授業が求められるか等についてお話いただきました。一方、今現在、日本の先生方は「アクティブ・ラーニング」、「主体的・対話的で深い学び」、「コンピテンシー・ベースのカリキュラム」などの言葉に振り回され過ぎているのではないかと。今こそ、それぞれの教科の本質にもう一度立ち返り、教えるに値する内容は何なのかを十分に吟味する必要があるというお話も

されました。

世田谷中では長年、教科指導に主眼を置いた研究を行い教科の本質とは何かを追及してきました。その研究が無駄ではなかったことが確認できた気がしました。これからも教科の本質を見据えつつ、生徒にどんな力を育てたらよいか。そのためにはどんな手立てが必要かを追及していきます。

また、石井先生は上述の著書の中で次の様に述べられています。「経済界や市民社会の要求を意識しつつも、そうしたライフスタイルに早くから慣らしていく(個人を社会化する)というよりも、将来出会う社会の荒波の中で消費されつくさないための人間性の核、いわば「人間らしさを守るための鎧」を形成していく(社会をよりよく生きる個人を育てる)。こうして、社会への参加につながる学びと、人間としての個を育てる文化的学びの両面が保障されることで、社会に適応し生き抜くだけでなく、その中で自分らしさを守り、生き方の幅を広げ、社会をよりよく生きていく力が育まれていくのです。」

このようなことも念頭に置きながら日々の教育活動を行っていきたいと思っております。

新学習指導要領の全面实施

平成28年3月に幼稚園・小学校・中学校の学習指導要領改訂が完了しました。そして昨年度1年間は周知・

徹底期間でした。高等学校は昨年度の平成29年に改訂が行われ、今年度が周知・徹底期間です。

学習指導要領の実施は全部の校種で一度に行われる訳ではなく、幼稚園から順次行われます。各校種の実施スケジュールは次の通りになります。

幼稚園：平成30年度より全面实施
小学校

移行期間：平成30～31年

全面实施：平成32年度より

中学校

移行期間：平成30～32年

全面实施：平成33年度より

高等学校

周知・徹底期間：平成30年度

移行期間：平成31～33年

全面实施：平成34年度より

上に記した通り、中学校では今年度から移行期間が始まっています。今年度、具体的に内容の取扱いの変更が指示されているのは社会科の一部の内容だけで、本格的に指導内容の移行が行われるのは来年度からとなります。「移行教材」という薄い教科書のような冊子もいくつかの教科で配られると思います。

このような時期に因んで、今号では、「新学習指導要領実施に向けての各教科の取り組み」を特集致します。

昨年度の特集「各教科の深い学び」と重なる部分もあるかと思いますが、さらに、各教科の取り組みをお知らせできればと思っております。